



## 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 京都ホテル

コード番号 9723 URL <http://www.kyotohotel.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 平岩 孝一郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 柳瀬 光義

TEL 075-211-5111

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	6,955	4.4	208	47.3	△151	—	△102	—
21年12月期第3四半期	6,665	△10.4	141	△66.9	△226	—	△123	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	△9.96	—
21年12月期第3四半期	△12.02	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	20,252	1,764	8.7	171.59
21年12月期	21,041	1,904	9.0	185.17

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 1,764百万円 21年12月期 1,904百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	—	—	3.00	3.00
22年12月期	—	—	—	—	—
22年12月期 (予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,059	5.9	867	36.1	399	145.4	237	149.2	23.05

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 \_\_\_\_\_）、除外 一社（社名 \_\_\_\_\_）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年12月期3Q	10,338,000株	21年12月期	10,338,000株
② 期末自己株式数	22年12月期3Q	55,422株	21年12月期	55,354株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	22年12月期3Q	10,282,601株	21年12月期3Q	10,283,766株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きを完了していますが、この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信、【添付資料】P.4「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) リファイナンスリスクに関する注記	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、経済対策の効果などにより一部に景気の持ち直しの動きが見られたものの、円高傾向や株価の低迷などから先行きの不透明感は拭えず、個人消費や企業業績は依然として厳しい状況で推移しました。

京都のホテル業界におきましては、需要喚起策の効果等から国内観光客の減少は下げ止まり、外国人観光客も中国をはじめとするアジアからの入国増により持ち直しの傾向にありますが、宴会部門においては、法人宴会の受注減少が継続しており、全体としては厳しい環境が続いております。

このような環境のもと、当社におきましては、ホテルレストランの特色を活かした手頃な価格のテイクアウト商品の開発に努める傍ら、京都ホテルオークラ内に「京都の隠れた名品」を販売するお土産処を設置し、加えて一部レストランを全面改装のうえ、京野菜をメニューに取り入れた京野菜「了以」を新装開店するなど、積極的な施設面の拡充を行い集客の増加に努めました。

また、ホームページの全面リニューアルの他、近接する駅構内や電車内にレストランやブライダル商品に関する広告を掲出するなど、広告宣伝にも力を入れて収益力の向上を図りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,955,563千円（前年同期比4.4%増）、営業利益は208,465千円（前年同期比47.3%増）を確保いたしました。

ホテル事業の部門別の営業概況は次のとおりです。

#### (宿泊部門)

京都ホテルオークラは、学会・国際会議等に伴う外国人旅行が好調に推移し、さらにインターネット予約での単価を抑えて稼働を上げる施策により、販売部屋数を伸ばす事が出来ました。

また、国内エージェント個人・法人直接予約も回復の兆しが有り、売上高は前年同期比53,067千円増となりました。

からすま京都ホテルは、外人旅行は好調に推移致しましたが、国内のエージェント個人が伸び悩み、売上高は前年同期比11,190千円減となりました。

この結果、売上高は2,162,950千円（前年同期比2.0%増）となりました。

#### (宴会部門)

京都ホテルオークラは、婚礼宴会の件数が僅かに前年を下回りましたが、人数では順調に推移し、売上高は前年同期比29,111千円増となりました。一般宴会におきましては、宴席の小規模傾向や新島会館及び銀行協会などの出張宴会が低迷し、売上高は前年同期比では20,569千円減となりました。

からすま京都ホテルは、一般宴会の件数は増加したものの、一件当たりの出席人数の減少及び料理単価の伸び悩みが影響し、売上高は前年同期比13,669千円減となりました。

この結果、売上高は2,306,316千円（前年同期比0.2%減）となりました。

(レストラン部門)

京都ホテルオークラは、京料理「入舟」鉄板焼「ときわ」での低価格ランチの販売、スカイレストラン「ピトレスク」のボストン美術館展に因んだイベントでの売上及び入客数の増加、カフェ「レックコート」では【食べる辣油】の人気に加えて宿泊のお客様をターゲットにしたお土産用の新商品の販売が好調に推移しました。

加えて9月から喫茶「りょーい」を業態変更し、京野菜「了以」としてリニューアルオープンした結果、売上高は前年同期比23,535千円増となりました。

からすま京都ホテルは、中国料理「桃李」での低価格ランチ及び夜のオーダーバイキングが定着し、売上及び入客共に好調に推移しましたが、5月に味処「すすほり」を閉店した事で、売上高は前年同期比25,502千円減となりました。

この結果、売上高は1,936,614千円（前年同期比0.1%減）となりました。

(その他部門)

その他部門の売上高は549,682千円（前年同期比86.6%増）となりました。

前年同期と比較して大きく増加している主な要因は、社内組織変更により「栗田山荘」及び「フィットネスクラブ」がレストラン部門より、その他部門へ移行したことによります。

部門別の売上高および構成比等は、以下のとおりです。

区分	平成22年12月期第3四半期累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)		前年同期比(%)
	金額(千円)	構成比(%)	
宿泊部門	2,162,950	31.1	2.0
宴会部門	2,306,316	33.2	△0.2
レストラン部門	1,936,614	27.8	△0.1
その他部門	549,682	7.9	86.6
合計	6,955,563	100.0	4.4

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産に関する分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ788,579千円減少し、20,252,639千円となりました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ648,982千円減少し、18,488,213千円となりました。

また、純資産は利益剰余金が前連結会計年度末に比べ139,596千円減少し、1,764,426千円となり、自己資本比率は8.7%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、長期借入金返済などにより、前連結会計年度末に比べ224,514千円減少し、当第3四半期連結会計期間末には956,733千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は535,669千円（前第3四半期連結累計期間比264,039千円の増加）となりました。これは主に利息の支払いが240,715千円であったものの、減価償却費574,550千円などがあったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は176,458千円（前第3四半期連結累計期間比133,044千円の支出の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出167,404千円があった事によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は583,725千円（前第3四半期連結累計期間比19,735千円の支出の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出667,000千円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年12月期の通期連結業績予想につきましては、平成22年2月12日に公表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、今後の経済状況や旅行客等の動向情報を収集した上で、通期の連結業績見込みについて見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

たな卸資産の評価方法の変更

原材料及び貯蔵品

当社グループは、従来、原材料及び貯蔵品については先入先出法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より総平均法による方法に変更しております。

これは仕入価格変動による損益計算への影響を平準化し、より適正なたな卸資産の評価及び期間損益の計算を行うことが目的であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

### 3. 四半期連結財務諸表

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	956,733	1,181,248
売掛金	364,074	476,629
原材料及び貯蔵品	53,409	95,907
繰延税金資産	109,874	38,985
その他	65,967	63,107
貸倒引当金	△1,095	△2,400
流動資産合計	1,548,963	1,853,477
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,942,012	13,323,538
機械装置及び運搬具（純額）	46,066	54,194
工具、器具及び備品（純額）	220,856	259,130
土地	5,049,750	5,049,750
リース資産（純額）	79,531	74,797
有形固定資産合計	18,338,217	18,761,411
無形固定資産		
ソフトウェア	16,730	13,949
リース資産	98,607	120,793
その他	4,429	4,429
無形固定資産合計	119,767	139,173
投資その他の資産		
投資有価証券	120,254	130,675
繰延税金資産	54,320	59,123
その他	78,469	107,200
貸倒引当金	△7,353	△9,842
投資その他の資産合計	245,691	287,157
固定資産合計	18,703,676	19,187,742
資産合計	20,252,639	21,041,219



(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	139,862	230,905
短期借入金	2,327,000	2,177,000
1年内返済予定の長期借入金	13,483,020	630,800
リース債務	53,154	49,295
未払金	447,419	557,807
未払法人税等	7,548	43,312
賞与引当金	72,300	—
その他	581,428	443,133
流動負債合計	17,111,732	4,132,255
固定負債		
長期借入金	—	13,519,220
リース債務	137,358	158,546
退職給付引当金	82,798	94,081
役員退職慰労引当金	29,709	34,591
長期預り保証金	1,121,613	1,198,502
その他	5,000	—
固定負債合計	1,376,480	15,004,940
負債合計	18,488,213	19,137,196
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	950,000	950,000
資本剰余金	209,363	209,363
利益剰余金	654,126	787,340
自己株式	△23,727	△23,702
株主資本合計	1,789,762	1,923,001
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,336	△18,977
評価・換算差額等合計	△25,336	△18,977
純資産合計	1,764,426	1,904,023
負債純資産合計	20,252,639	21,041,219

(2) 【四半期連結損益計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	6,665,603	6,955,563
売上原価	1,321,263	1,444,241
売上総利益	5,344,339	5,511,321
販売費及び一般管理費	5,202,851	5,302,856
営業利益	141,487	208,465
営業外収益		
受取利息	568	291
受取配当金	1,500	1,480
受取手数料	6,310	6,341
その他	8,297	5,998
営業外収益合計	16,675	14,111
営業外費用		
支払利息	355,971	339,328
その他	28,507	34,633
営業外費用合計	384,478	373,962
経常損失(△)	△226,315	△151,384
特別利益		
貸倒引当金戻入額	890	1,305
前期損益修正益	4,681	—
特別利益合計	5,571	1,305
特別損失		
固定資産除却損	6,783	10,949
特別損失合計	6,783	10,949
税金等調整前四半期純損失(△)	△227,527	△161,028
法人税、住民税及び事業税	5,732	3,080
過年度法人税等	12,705	—
法人税等調整額	△122,395	△61,744
法人税等合計	△103,957	△58,663
四半期純損失(△)	△123,570	△102,365

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△227,527	△161,028
減価償却費	602,015	574,550
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,200	△3,793
賞与引当金の増減額(△は減少)	70,200	72,300
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△11,406	△11,282
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△37,873	△4,881
受取利息及び受取配当金	△2,068	△1,772
支払利息	355,971	339,328
固定資産除却損	6,783	10,949
売上債権の増減額(△は増加)	181,596	115,042
たな卸資産の増減額(△は増加)	36,001	42,497
仕入債務の増減額(△は減少)	△122,043	△91,043
未払金の増減額(△は減少)	△173,682	△71,995
その他	△125,282	△1,900
小計	551,484	806,970
利息及び配当金の受取額	2,068	1,772
利息の支払額	△250,095	△240,715
法人税等の支払額	△31,827	△32,358
営業活動によるキャッシュ・フロー	271,629	535,669
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	15,600	—
有形固定資産の取得による支出	△58,665	△167,404
無形固定資産の取得による支出	△990	△9,054
その他	641	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△43,413	△176,458
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	150,000
長期借入金の返済による支出	△640,000	△667,000
リース債務の返済による支出	△32,139	△36,328
自己株式の取得による支出	△990	△25
配当金の支払額	△30,331	△30,372
財務活動によるキャッシュ・フロー	△603,461	△583,725
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△375,245	△224,514
現金及び現金同等物の期首残高	1,361,881	1,181,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	986,636	956,733

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日至平成21年9月30日）及び、当第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）において、当社グループはホテル事業を行っており、当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日至平成21年9月30日）及び、当第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）において、本邦以外の国または地域に所属する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日至平成21年9月30日）及び、当第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）において、海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) リファイナンスリスクに関する注記

第3四半期連結会計期間末において、1年内返済予定の長期借入金の残高は13,483,020千円（前連結会計年度末630,800千円）となっております。この増加は、京都ホテルオークラの土地・建物について資産流動化スキームにより実行された当社連結子会社である「有限会社おいけプロパティ」（以下「おいけプロパティ」といいます。）の長期借入金の返済期限が平成23年3月31日であるため、平成22年3月31日において、当該借入金残高13,810,420千円を長期借入金から1年内返済予定の長期借入金に振り替えたことによるものであります。

当該借入金の返済期限については、おいけプロパティが貸付人に延長を通知した場合、自動的に2年間延長されることになっていますが、おいけプロパティは当該スキーム上の規定に従い金融機関をファイナンシャルアドバイザーとして選定した上、延長前の返済期限到来日までにリファイナンスを実施するための手続きを進めているところです。

将来のリファイナンスに際し、資金調達環境の悪化によりリファイナンスが困難になった場合には当社グループの経営成績および財政状態に悪影響を与える可能性があります。当該借入金は京都ホテルオークラの土地・建物を信託不動産とした資金流動化スキームのため、リファイナンスリスクは極めて限定的と考えております。